# 古着支援プロジェクト

国際協力NGOわかちあいプロジェクトが年に1度実施している古着支援プロジェクトを2020年も実施いたします。ご自宅で眠っている衣類がありましたら、私たちの支援活動にご協力ください。

## 第28回　2020年度古着募集要項

**募集期間**

2020年6月1日（月）～6月10日（水）

※この期間に必ず到着するようにお送りください。
※この期間以外に到着した場合は受け取りできず、送り主へ返送されます。

**支援先と活用法**

●ウガンダの南スーダン難民居住区

皆様に送って頂いた古着は日本より船で運ばれ、現地で活動するNGOにより難民キャンプで生活する人々に平等に配分されます。

**古着の種類**

ズボン、Tシャツ、Yシャツ、トレーナー、ジャージ、カーディガン、セーター、スカートなど動きやすい普段着を中心に募集

※夏服・冬服は問いません。
※大人用・子供用は問いません。
※洗った状態で、コンディションの良いもの
※靴、下着、靴下、雑貨類不可

**送付方法・送り先**

衣類を段ボール（サイズの上限=縦・横・高さの合計が160cm以内）に入れて、以下の宛先までお送りください。（宅配業者の指定はありません）

〒140-0003　東京都品川区八潮2-9
商船三井大井物流センター 1F　（株）宇徳内
わかちあいプロジェクト
Tel：03-3634-7809

※配送にかかる送料をご負担ください。
※直接上記住所への持ち込みも可
（営業時間：平日　午前9時～11時30分／午後1時～4時）
※倉庫では荷物の引き取りのみで、現金による募金の受付や問い合わせ対応はいたしません。

**募金方法・注意点**

日本から現地までのコンテナ輸送費、通関費用、現地の運搬費用等に充てるため、古着1箱あたり2,000円の募金を送金お願いします。

※募金は衣類に同梱しないようお願いいたします。
※古着だけの送付は受け付けていません。
※募金は衣類発送前または発送後2週間以内にお願いいたします。

郵便振替口座
一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390
通信欄に「古着募金」と記入

クレジットカード
当団体HPよりカード決済が可能です。
➡https://www.wakachiai.com/clothes/
アクセスし、「募金ページへ」をクリック

**現地受入団体**

LWF（ルーテル世界連盟）ウガンダ

## 古着募金増額のお願い

2020年は支援先のウガンダへの陸路の輸送費が増額することと、南スーダン難民居住区に古着を保管する倉庫がなく、貨物コンテナごと買取寄付することが 求められています。これらの費用をまかなうため、募金金額を増額させていただくことと致しました。寄付するコンテナは、今後も難民居住区の物資倉庫として使用される予定です。なお、募金の一部は、国内の報告や広報費、事務所経費等に充てさせていただきますことをご理解ください。

## 募金のご協力をお願いします

① **一般募金**（わかちあいプロジェクトの活動全般をサポート）
② **古着支援募金**（難民古着支援プロジェクト活動費等）
③ **難民支援募金**
④ **ミャンマー奨学金募金**
⑤ **南スーダン支援募金**（Peace Palette活動支援）

**募金の送付先**　郵便振替口座
一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390
（※通信欄に上記募金の種類をご記入ください）

## わかちあいプロジェクトについて

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪問した際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー（カフェ・マム）の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につなげています。また同じ頃、アフリカ・ソマリア難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

❶ 国際フェアトレード認証製品の輸入、商品開発、販売
❷ 難民支援活動（古着支援、緊急支援）
❸ 途上国の自立支援

Fair Select

**わかちあいプロジェクトのフェアトレードオンラインショップ「Fair Select（フェアセレクト）」**

お買い物で途上国の生産者の自立を支えるフェアトレードをぜひご利用ください。

フェアセレクト　検索


**わかちあいプロジェクトNEWS No.35**
2020 March（年1回発行）

**編集**　一般社団法人わかちあいプロジェクト
**デザイン**　Design Convivia
**発行元**　**一般社団法人わかちあいプロジェクト**
135-0001 東京都江東区毛利2-2-8誠和ビル
TEL：03-3634-7809　FAX：03-3634-7808


わかちあいプロジェクト

# わかちあいプロジェクト NEWS No.35

2020 April

## 東京オリンピックはカクマ難民にとって大きな夢です


松木 傑　わかちあいプロジェクト代表


東京オリンピックには、前回のリオに続いて、難民となり母国から出場ができない選手で構成された難民選手団が参加することになっています。私たちが長年支援してきたケニア北西部にあるカクマ難民キャンプからも複数の選手が参加する予定で、昨年12月には選考会が開かれました（左写真）。

今年で28回の開催となる難民古着支援事業は、1993年のソマリア内戦の支援活動から始まりました。現地視察のためケニアの難民キャンプを訪問した際に、衣類がなくUNHCRが配布するテントをまとっている子供たちのために、古着の寄付を求められました。最初の古着は1993年9月に、カクマ難民キャンプに送りました。それがきっかけで、1994年から2002年までの間、カクマ難民キャンプで実施されたワークキャンプに日本から青年たちを派遣し、幼稚園、外来病棟、職業訓練棟、図書館、青年センターなどの建築に参加しました。

1999年には、カクマ難民キャンプで出会った日本の青年たちの提案で、難民マラソンランナーを12月の福岡国際マラソンに招待しました。その後2001年には、2人のランナーを長野マラソンに招待しましたが、パスポートを持たない難民が海外に出ることがどんなに難しいか思い知らされました。その難民ランナーのアテンドを、スポーツが好きな故・高村憲明さんが献身的に行ってくれました。彼は2000年大学を卒業後、わかちあいプロジェクトのスタッフとしてカクマ難民キャンプで青年とスポーツのプログラムを担当しました。子どもたちを難民キャンプの外の演劇イベントやスポーツイベントに参加させ、「誰も生きがいや、希望が必要だ」との思いで準備し励ましていました。2001年4月の長野マラソン前には、ケニアで高地トレーニングを積み、スポーツを通して希望を実現するという夢を追い求めました。その想いは、いまカクマの難民たちが東京オリンピックを目指す、生きがいと希望の中に継続されています。“頑張れ”

偶然のことですが、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長は、首相であった1991年1月にカクマ難民キャンプを訪問し、1月の施政方針演説の最後で、カクマのことにふれ以下の詩で締めくくっています。
「私たちは　ひとつの海の　いくつかのしずく　私たちは　ひとつの大洋の　いくつかの波　ともに探そう　協調への道　それが　あなたと私の生きる道
アフリカの子どもたちが、私のために歌ってくれた詩です。この平和への願いと、子どもたちの希望に輝いた目は、世界のどの国でも同じです。」
これは高村さんがケニアの日本大使館の求めでカクマでの受け入れを行い翻訳したものです。そのこともあって、長野マラソン後、首相官邸を訪問しました（右写真）。

東京オリンピックの難民選手団に加わるためのカクマ難民キャンプでの選考会の様子

2001年の首相官邸訪問時の写真。
左から、高村、デビサ（難民ランナー）、森元首相、ラカウ（難民ランナー）、松木

# 難民古着支援プロジェクト

わかちあいプロジェクトでは、長引く紛争等により故郷へ帰れず避難生活を余儀なくされている人々を支えるため、日本からご寄付いただいた衣類を送る活動を1993年から行っています。

2019年度第27回難民古着支援プロジェクトには、全国各地から7075箱の衣類をお寄せいただきました。たくさんのご支援・ご協力をありがとうございました。

ご寄付いただいた衣類は、支援先であるタンザニアに届いた後、現地のUNHCRに引き渡されました。タンザニアは近隣国から多くの難民を受け入れており、ブルンジ共和国との国境近くにあるムテンデリ難民キャンプには、未だ多くのブルンジ難民が生活しています。2020年1月現在、タンザニア政府の方針により支援物資の配布が制限されていることから、支援団体の倉庫に保管されておりますが、調整がつき次第、難民キャンプで平等に配布されることになっています。

タンザニアの難民キャンプで暮らす子どもたち

## 洪水被害者への支援

2020年1月、タンザニア南東部にて3日間に渡る大雨による洪水が発生し、18,000人以上の人々が被害を受け、少なくとも40名の死者が出る事態となりました。海岸部のリンディ地方では、1746世帯が全壊し、1074台の公衆トイレが破壊され、学校や道路、橋などのインフラも大きな被害を受けました。現地パートナー団体のTCRSは、タンザニア政府の要請を受けて即座に被害者の支援にあたり、洪水によって避難を余儀なくされた人々や、多くの物を失ってしまった人々に、2019年度にお送りいただいた古着の一部を配布しました。難民キャンプでの配布用にご支援いただいた衣類でしたが、緊急性の高い洪水の被害者にも配布させていただきましたことをご報告いたします。現地では生活のために必要なもの全てが不足しており、衣類の支給は大変喜ばれました。

今後もわかちあいプロジェクトでは厳しい環境で暮らす方たちを支えていけるよう、活動を続けて参ります。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

古着配布の様子

古着を手に取り喜ぶ洪水被災者



# ミャンマー教育支援
# 奨学金で19名の中高生を支援

2019年度はわかちあいプロジェクトに寄せられた寄付金5,000ドル（約54万円）でミャンマーカヤー州の19人の子どもたちに奨学金を支給することができました。

支援地であるミャンマーカヤー州の険しい山岳地域の農村部に住む子どもたちは、自宅から離れた遠くの町の学校に行くため、学校へ行くには親元を離れて寮生活をする必要があります。しかしほとんどが農家の子どもたちで、兄妹も多いことから経済的な余裕がなく、中学校や高校への進学を諦めざるを得ない境遇にあります。また、片親か両親を亡くしている子どもたちも多く、奨学金なしでは勉強を続けられない子どもたちが多くいます。わかちあいプロジェクトが支給した奨学金は、現地コーディネーターが小学校の成績や本人の意志をもとに選んだ19名に支給され、1年間分の学費に充てられます。わかちあいプロジェクトでは、できるだけ多くの子どもが学校に通えるよう、これからも教育支援を実施していきます。

奨学生の集合写真

子供たちから寄せられた感謝の声

# 南スーダン支援
# スポーツを通した平和構築

依然として内戦状態が続く南スーダンにて、スポーツを通して平和を構築しようと、2017年に開始したS4P（Sports for Peace）プロジェクトでは、NGO Peace Palette（ピースパレット）の主催でバスケットボールの親善試合が行われました。

2018年12月に開催された第2回の大会には6つの州から選出された選手85名、審判5名、コーチ6名が参加し、ピース・アンバサダーとして州の垣根を超えた平和構築トレーニングに貢献しました。大会では、新たに複数の州の混合チームである5名のガールズチームと、11名のU14（14歳以下）チームも結成されました。2019年4月にはトゥイク州で親善試合が開催され、14歳以下の男の子20人、女の子15人がスポーツで触れ合いました。

親善試合に参加した女の子チーム

内戦中にあるとはいえ、揉め事もなく全ての参加者がスポーツマンシップに則って穏やかに開催され、スポーツを通して人々の間の偏見を無くし、円満な関係を築くことによって草の根レベルで対立を無くしていこうという目的にまた一歩近づきました。大会に参加した選手は、「参加できて本当に嬉しい。このバスケットボール大会がなければ、他の州の人と会えることは二度となかった。」と話しました。わかちあいプロジェクトでは、今後もピースパレットと共に、南スーダンの人々を支援していきます。

試合前に平和について語り合う参加者たち

S4Pの運営スタッフTシャツにはわかちあいプロジェクトのロゴも印刷されました。